

「第5回 JR久留里線（久留里・上総亀山間）沿線地域交通検討会議」  
議事要旨

1 日時 令和6年10月21日（月） 14時00分～15時45分

2 場所 君津市保健福祉センター（ふれあい館）  
2階コミュニティホール

3 議題

（1）JR久留里線（久留里・上総亀山間）沿線地域交通検討会議  
検討結果報告書（案）について

4 議事内容

（1）JR久留里線（久留里・上総亀山間）沿線地域交通検討会議  
検討結果報告書（案）について

- ① 事務局から、報告書（案）について説明があり、意見交換を実施した。
- ② 千葉県から、報告書では、地域の実情を踏まえれば、現状の交通体系よりも「自動車交通」のほうが、地域にとってより利便性の高い交通となるのではないかとしているが、「鉄道廃線」を結論づけるものではなく、あくまで今後の参考となるものであること、また、今後、報告書を踏まえ、具体的な地域交通を検討していくことになるが、現状以上の交通体系が実現され、地域の方々が安心してこの地域に住み続けられるよう検討していくことを、お願いしたいと考えているとの発言があった。

- ③ 君津市から、自動車交通がより利便性の高い交通となり得るとの内容を重く受け止めている、J Rがどのように受け止めるかによるが、沿線住民の中には、自動車交通の持続性に関する不安などの声があるため、J Rには総合的に検討いただき、引き続き、地域交通や地域活性化に積極的に関わり続けてほしいとの発言があった。
- ④ 住民代表から、住民にとって、より利便性の高い公共交通を将来にわたって維持していただくことが大事であり、本検討会議の役割から考えれば、本報告書の結果は妥当なものではあると受け止めている。
- また、心情的なものではあるが、鉄道を残して欲しいという声も地域に多くあったことを踏まえて、今後の検討にあたって欲しい旨の意見があった。
- さらに、J Rに対し、仮に代替交通となるならば、線路等の跡地活用の検討も含め、J Rがこれまで公共交通を担ってきた責任を果たしていただきたいとの意見があった。
- ⑤ J Rから、これまで地域交通を長年にわたって担ってきた経緯等を踏まえ、仮に代替交通の検討となった場合でも、沿線自治体や地元の交通事業者等との協働により、その持続的な運行及び利便性の確保に向け、関係者としてしっかり協議していきたいと考えていること、また、地域の方々と連携しながら観光面などの地域振興に積極的に努めていきたいとの発言があった。
- ⑥ 検討会議における意見交換を踏まえ、事務局が報告書（案）「4（2）今後について」の箇所を別添「報告書（案）新旧対照表」のとおり追記したうえで最終版とすることを、委員全員が確認した。
- ⑦ このことから、検討会議としては今回の会議で終了とし、会議の成果物としての報告書最終版が完成次第、公表する。

以上

J R久留里線（久留里・上総亀山間）沿線地域交通検討会議

構成員名簿

（敬称略、順不同）

【委員】

<県>

にしきおり よしまさ  
錦 織 良 匡 千葉県総合企画部交通担当部長

<沿線自治体>

すずき ひろお  
鈴木 広夫 君津市企画政策部長

<鉄道事業者>

しょうのう しゅんすけ  
正 能 俊 輔 東日本旅客鉄道株式会社千葉支社企画総務部企画部長

<有識者>

ふじい たかひろ  
藤井 敬宏 日本大学理工学部交通システム工学科特任教授

<住民代表>

まつぎき まさゆき  
松崎 正行 久留里地区自治会連絡協議会会長

さいとう けんきち  
齋藤 健吉 松丘地区自治会長

かとう ひろかず  
加藤 洋和 亀山地区自治会連絡協議会会長

【オブザーバー】

<国土交通省>

いちの まさひで  
市野 将英 関東運輸局交通政策部交通企画課長

みつはし ゆたか  
三橋 裕 関東運輸局鉄道部地方鉄道再構築推進調整官

<関係自治体>

すずき あきのり  
鈴木 昭宣 木更津市企画部地域政策室長

ひらの たけし  
平野 剛志 袖ヶ浦市企画政策部企画政策課長

【事務局】

千葉県 総合企画部 交通計画課

報告書（案）新旧対照表

○J R久留里線（久留里・上総亀山間）沿線地域交通検討会議検討結果報告書（案）～沿線地域の利便性の高い公共交通への提言～

会議後	現行
<p><b>4 結び（まとめ）</b>  <b>（２） 今後について</b>            今後、本報告書を踏まえ、申し入れを行ったJ Rが、上総地区にとって望ましい交通体系について検討・提示することが求められる。</p> <p>その上で、最終的に具体化する際には、鉄道・バス・タクシーといった交通事業者を含め、地域の関係者で構成される君津市地域公共交通会議（法定協議会）において、時間帯・エリアごとに最適な運行ルート・交通手段の組合せ・コスト負担を検討し、地域のより良い公共交通のあり方を決定することとなる。その際、この地域の利便性がより高まり、持続可能な交通体系が構築されるかどうかの観点が、最も重要である。また、数多くの観光資源を活用した地域振興に寄与するとの観点にも留意する必要がある。</p> <p><u>地域交通の維持確保・充実には、地域の公共交通政策を担う君津市が千葉県の協力も得ながら、検討していくとともに、J Rがこれまで地域交通を長年にわたって担ってきた経緯等を踏まえ、沿線自治体や地元の交通事業者等との協働により、その持続的な運行及び利便性の確保に向け、君津市と協議すべきである。また、J Rが地域の方々と連携しながら、観光面などの地域振興に積極的に努めることが必要であると考えられる。</u></p> <p>なお、千葉県は、検討会議終了後も、君津市地域公共交通会議を通じて、上総地区の地域交通のあり方の議論に積極的に関与する。</p> <p>上総地区において、関係者間の協働・共創による、地域住民にとってより良い交通体系が構築されることを期待したい。</p>	<p><b>4 結び（まとめ）</b>  <b>（２） 今後について</b>            今後、本報告書を踏まえ、申し入れを行ったJ Rが、上総地区にとって望ましい交通体系について検討・提示することが求められる。</p> <p>その上で、最終的に具体化する際には、鉄道・バス・タクシーといった交通事業者を含め、地域の関係者で構成される君津市地域公共交通会議（法定協議会）において、時間帯・エリアごとに最適な運行ルート・交通手段の組合せ・コスト負担を検討し、地域のより良い公共交通のあり方を決定することとなる。その際、この地域の利便性がより高まり、持続可能な交通体系が構築されるかどうかの観点が、最も重要である。また、数多くの観光資源を活用した地域振興に寄与するとの観点にも留意する必要がある。</p> <p>なお、千葉県は、検討会議終了後も、君津市地域公共交通会議を通じて、上総地区の地域交通のあり方の議論に積極的に関与する。</p> <p>上総地区において、関係者間の協働・共創による、地域住民にとってより良い交通体系が構築されることを期待したい。</p>